

日経ドラッグインフォメーション

日経DIクイズ

# DI

プレミアム版

## 寝たきり患者に どの去痰薬を提案する？

特集

### 高まる薬学部定員過剰論

好評連載

症例に学ぶ 医師が処方を決めるまで

### 腰痛



特集

# 服薬支援のワザ 四十八手

9  
2016

ユーザー訪問 トーカイ薬局 一宮西店 (愛知県一宮市)

# 「ミスゼロ子」と「散薬監査システム」を活用 「安心感が高いシステム」と評価

愛知県のトーカイ薬局 一宮西店では、レセコン連動で医薬品のピッキングミス防止する(株)クカメディカルの「ミスゼロ子」と「散薬監査システム」をあわせて活用。「薬品名誤りや規格誤りがゼロになった」という。

## 夜中の電話の問い合わせにも丁寧に対応

トーカイ薬局 一宮西店は、健康づくりのプロフェッショナルを目指し、愛知県で17店舗、岐阜県で23店舗の計40店舗の調剤薬局をチェーン展開する(株)トーカイ薬局(本社:愛知県春日井市)が2011年に開局。近隣に一宮市や尾張西部地区の地域医療の拠点となっている総合病院があり、応需する処方箋(2300~2400枚/月)の多くを同病院の受診患者が占める。

「名古屋のベッドタウンといえる一宮市は人口が増えており、新しいマンションも次々と建てられています。来局する患者さんは高齢者の方が多いのですが、40歳代、50歳代で心筋梗塞や脳梗塞を発症した方もおられ、生活習慣病対策の重要性を感じます。薬局内での服薬指導はもちろん、「熱が急に上がったがどの薬を飲んだらよいのか」、あるいは「この薬とこの薬をいっしょに飲んでもよいのか」など、夜中でも電話の問い合わせがあり、こうした相談に丁寧に答えることが大切だと思っています」と同薬局の薬局長・高橋芳浩氏は話す。

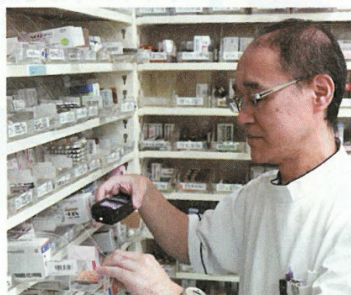
備蓄医薬品目数は約1800品目で、年々増加しているとのこと。ジェネリック医薬品の調剤割合は72%程度だという。スタッフは薬剤師7人(うち常勤2人)、事務6人(うち常勤3人)の構成で、老人保健施設の在宅訪問もこなしている。

## 薬品名誤りや規格誤りがゼロに

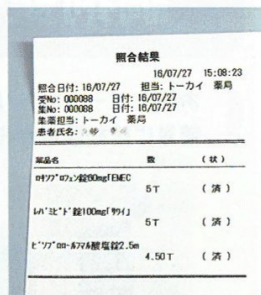
トーカイ薬局グループでは店舗数の増加とともに、調剤過誤防止の重要性を認識し、医薬品を特定するGS1コードをハンディ



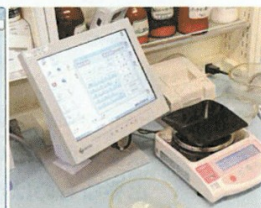
トーカイ薬局 一宮西店のスタッフの皆さん



「ミスゼロ子」によるピッキングを行う高橋芳浩氏



照会結果を印刷して確認することも可能



「散薬監査システム」(上)も活用。グラフィカルで分かりやすい表示で調剤ミスを防止する(左)

端末で読み取ってピッキングミスを防止する「ミスゼロ子」を2008年から導入。また、同社の「散薬監査システム」もあわせて全店で活用している。

「当薬局では来局数や取扱医薬品数の増加に伴い、メーカー違いや規格違い等の勘違いを防ぐ必要があり、学術大会の機器展示ブースで『ミスゼロ子』の存在を知り、本部が導入を決定しました」と高橋氏は語る。

「ミスゼロ子」の運用では、「処方箋受付→ゼロ子による調剤開始→レセコン内容と照合→監査」という流れを基本とし、患者数が増えてきた時は、「処方箋受付→レセコン入力完了後→ゼロ子にて調剤・照合→監査」という流れで対応している。このように「状況に応じて様々な運用方法が柔軟に行える点は、非常に使いやすい」と高橋氏。

「ミスゼロ子」は、調剤の初心者にもミスが分かりやすく、容量確認の表示やウィークリーシート時の表示機能による数量間違いを防ぐことができるため、「安全な投薬だけではなく、薬剤師の心理的不安を解消し、今では『ミスゼロ子』がないと調剤業務が成り立たない」と高橋氏は評価する。

また、「散薬監査システム」では、薬品違いに加え、秤量ミスをグラフィカルに注意喚起し、常用量を設定することでセーフティゾーンを表示してくれるなど、分かりやすい表示機能が調剤ミスの未然防止に役立っている。

今後はピッキングだけでなく、棚卸機能など拡張機能の検討を行っており、「ミスゼロ子」のさらなる活用を目指している。